



あさひ

学校だより1月号
令和3年1月6日
横浜市立旭小学校

昭和34年4月18日制定

<旭小学校ホームページ> 随時更新しています。ぜひご覧ください。

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/asahi/index.cfm/1.html>



ちょうどよい距離

学校長 高桑 透

新年あけましておめでとうございます。新しい年は少しでも心安らぐ1年になって欲しいと強く願っています。本年も、どうぞよろしくお祈りします。

さて、みなさんはヤマアラシという動物を知っていますか。体中が針のような棘でおおわれてハリネズミと似ています。そのヤマアラシのまつわる話を紹介します。

真冬のある日、吹雪の中で、寒さに震える2匹のヤマアラシがいました。寒くて寒くてたまらないヤマアラシは、互いの身を寄せて温まろうとしました。ところがヤマアラシには棘があるので、体をくっつけてしまうと、相手に棘が刺さって、痛くてたまりません。かといって、痛いので体を離そうとすると、今度は、また寒くて凍えそうになってしまいます。

くっついたり離れたりを繰り返すうちに、2匹は、ようやく「体は温まるけれどお互いの棘は刺さらない」くらいのちょうど良い距離を見つけました。

これは、ドイツの哲学者ショーペンハウアーの寓話が元になっていて「ヤマアラシのジレンマ」や「ハリネズミのジレンマ」と言われる話です。解釈はいくつかあるようですが、私には、「本当は傷つけずに温まりたいのに…」というヤマアラシの思いは、「本当は仲良くなりたいたいの…」という気持ちを例えているように思います。親しい相手に対してつい嫌なことを言ってしまふ、そしてけんかや衝突が起きて距離を置くようになると、けんかがなくなる一方で寂しさを感じやすくなるという矛盾＝ジレンマは、子どもも大人も経験のあることではないでしょうか。また、仲が良かったはずなのに、いつの間にか傷つけ合ってしまう、仲良くなりたいたいのによそよそしい関係になってしまうなど、よくあることではないでしょうか。実際のヤマアラシは、棘のない頭の部分を寄せ合って体温を保ったり睡眠をとったりしているそうですが、この話のヤマアラシは、どちらにとっても最善となる方法を探します。この行動がとても大切であり、難しいことです。「寒い、でも痛い、でも寒い…」と相反する思いや状況の板挟みの中で試行錯誤し、互いにとって心地よいと感じる距離をつかんだヤマアラシの姿＝かかわることをあきらめずに試行錯誤する姿こそジレンマの解決には不可欠だったと、思います。

子どもたちには、あきらめたり投げ出したりせずに友だちや家族など自分の周りの人とのかかわりを持ち続けてほしいと思います。「これくらいだとまだ痛いなあ…」「ここまで離れると温かくないし…」とヤマアラシたちが試行錯誤したように、ちょうど良い距離感を見つけるためにかかわり続ける中で、きっと、棘の長さが人によって違うことに気づいたり、傷ついた意味を理解することで痛みが次第に薄れることを知ったりすることができます。その経験や気づきにこそ、学びがあり、その過程で人は成長するのではないのでしょうか。様々な活動を通して、仲を深めながら、仲間とかがわることを十分に経験し、よりよい人間関係を築くことができる子どもを育てていきたいと考えています。



一月の取組目標

生活目標

礼儀正しくしよう

保健目標

姿勢を正しくしよう

清掃目標

整理整頓をして気持ちよい教室にしよう

給食目標

感謝の気持ちをもって食事をしよう